

巻 頭 言



常務取締役
知多製造所長 小 畠 賢 介

昭和50年前後の日本の鋼管年間生産量は900~1000万トンのレベルで微

増あるいは横ばいに推移してきたが、昭和53年は1100万トン台、昭和54年は1200万トン台と増加傾向に転じた。これは、おもに石油やガスなどのエネ

は外径 426mm 肉厚 40.5mm までに拡大された。また、前述の各熱処理設備の導入により、油井用鋼管では API 5AC, 5AX がすべて製造可能になったほか、コラプス抵抗性に優れた KO-95T, -105T, 耐 SSC 性に優れた KO-85SS, 90SS 等の改良品も同時に低価格性を保証する KO-95T, -105T, -110T, 90SS, 91SS